

2014/11/09

礼拝メッセージ

「自由に生きる人になる」

ガラテヤ 4 : 21 ~ 31

ダニエル 6 章

イザヤ 53 : 1 ~ 54 : 1

教員資格の更新時期になったので、大学の講義を受けています。これがためになることこの上なしで、やはり専門的な勉強をしている人たちから受ける示唆というものは大きいなと思いました。その中で「学習指導要領改訂の歴史」というものがありました。これがおもしろい。

1970年代から1980年代にかけて、世界は米ソ冷戦時代、お互いに武器開発、宇宙開発にあけくれ、それに必要な人材育成を強いられ、日本もそのあおりをうけました。科学技術者の育成、競争に勝てる人材の育成ということで学習指導要領もそんな感じで知識を得て社会に役立つ人間になれ、ということで詰め込み教育がなされました。しかし、授業がわからなくなる子もあり、つまらないからストレスがたまり、ストレスを発散するため行動が荒れてゆき、校内暴力が頻発するようになりました。と当時の文部省は考えました。

1990年代から2000年代にかけては、もっと人を見て心豊かに、ということで休みを増やし、総合的学習の時間ということで自由度を上げていきました。しかし、なぜかしかられたくないという人が増え、そのためには支持を待って動くのが大事な指示待ち人間ができてしまった、とまた政府は考えました。

そして今は、「生きる力」、これが政府の出している方針です。知性、道徳、体力のすべてにおいてバランスの取れた人間を育てるというものです。ということは今の子供たちはバランスが取れていない、ということの意味するのですね。

しかし、私は今日敢えて言わせていただきます。もうバランスは取れているのです。どのように？世代を越えて、です。わたしたちは知らないうちに世代間の壁のようなものを作り、子供、青年、中年、老年と分けて考え、それぞれが自分以外の世代にダメだしをして生きています。しかし、同じ国民として互いに受けてきた教育の持ち味を出し合えば、完璧とはいかないまでもかならずバランスは取れるはずですよ。

パウロの目にはガラテヤ教会もバランスが崩れていました。ガラテヤ書を通して私たちが律法にもはやしぼられず、自由に生きることが許されているのだ、と語っています。しかも手を変え品を変え、何度も繰り返されています。なぜでしょうか？パウロの目にはガラテヤ教会があまりにも律法にしばられ、主にある自由がおろさかにされていると思ったのです。決して律法を否定しているわけではありません。律法は使い方さえ誤らなければ役に立つものですし、よいものです。けれども律法的、律法主義になってしまうと暗いものになってしまいます。けれども恵みの光にてらされれば私たちを大きく前進させてくださるでしょう。イエスは恵みと真理、すなわち自由と律法の象徴なのでから。

このことは人間の歩みのようでもありますね。ひとつの足を出し、バランスが崩れる、もうひとつの足で支えてとまる、体が移動し、また崩れる、その繰り返りで進んでいきます。律法を通して罪を知り、十字架を通して恵みを知る、さらにまた自分の罪を知り、許しの恵みを知る、単調な繰り返しのようであっても確実に前進しています。この現実の世界では大変なようですがすべて主の愛の中で行われているので苦しくはありません。いつも主

が支えてくださっています。決して私たちを軽蔑したり、見捨てることなく、あなたはずでに完全なものだよ、といてくださっているのです。

旧約には、ダニエルという人物が出てきます。バビロン帝国、ペルシャ帝国の二つに仕え、ともに王に次ぐ側近として活躍しました。彼はそれぞれの王に忠実ではありましたが、王様を絶対視せず、自分の信条をもっていました。ダニエル書6章はその証拠です。彼にとってはその地位も、おそらく持っていたであろういくらかの富も自分の人生を決めるものではありませんでした。そして、ペルシャ王の定めた法律に従わず、主を礼拝しました。これは彼の持つ主にある自由の力強さです。わたしたちにも同じ自由が与えられているのです。恵みによって。

またイザヤ書54章には「喜べ。不妊の女よ。」という言葉が出てきます。この女は当時の社会通念の中で「不妊の女」であることに恥ずかしさと怒りを覚えたはずですが、しかし、そんな中でも主は喜べ、というのです。これは命令でしょうか。違います。これは喜ぶ特権があるということをお教えているのです。何を喜ぶのか。不妊であることを無理に喜べ、というのではなく、すぐ前に出てくるイザヤ書53章の預言、イエス・キリストの十字架のわざがあるから、喜べるんだよと言っているのです。これもまた主にある自由ではないでしょうか。私たちはこのように逆境においても、主に従い、喜ぶ自由が与えられているのです。

もう一度ガラテヤ書にもどりましょう。バランスの取れたダニエルが自由に神にむかったように、またイザヤ書で十字架の苦しみを通して、不妊の女が喜んだように、私たちには聖霊によって、自由に聖書を読み、自由に真理を悟り、自由に主を喜ぶ特権が与えられているのです。そして、それを世代を越えた隣人たちと一緒にすることができるのです。このように隔ての壁を打ち壊してくださった主に心から感謝します。自由の女の子として主の愛を心から、というか、ある意味勝手に喜んでしましましょう。そして、ここにいる皆さんがそれぞれ考え方も育ちも違うとはいえ、主にあるからだとしてお互いから学びあっていけることを心から感謝いたします。